

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）	当初示した判定基準	担当
1 より高い目標に挑戦する生徒を育成するとともに、その目標実現のために生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行う。	① ホーム担任等との面談を繰り返し、生徒が将来を見据えてより高い進路目標を設定できるように支援する。	担任との個人面談が進路を考える上で参考になったとする生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	達成度 B 85%	担任は、年間を通して面談を行い、きめ細かな指導をしている。また、R-CAP、スタディーサポート、模試の結果など自分の進路を考える材料が増えていったことが面談の内容の充実につながり、前期の78%より高くなったと考えられる。 次年度に向けて、進路指導に関する指針を担任と生徒に示すことにより、担任と生徒がお互いに進路について話し合えるきっかけを作っていきたい。	C、Dの場合、面談内容や時期、および面談回数等、生徒への情報提供のあり方や意識づけ方法を検討する。	進路指導課 各学年
		第一志望の上級学校または事業所に合格した生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	達成度 D 58%	4月の進路希望調査では、56名が国公立大学を希望していたが、十分に成績を伸ばすことができなかった。また、志望校をなかなか決めることができず希望が変更されたことが、一致率が低くなった原因とも考えられる。一方で、短大や専門学校を希望する生徒は、AOや自己推薦を利用し1校のみ受験した生徒がほとんどであり、第1志望の学校に合格したと考えることができる。 次年度に向けて、4年制大学を希望する生徒については、できるだけ早期に志望校を決め、十分な対策ができるよう指導していく必要があると考える。	C、Dの場合、次年度の取組を再検討する。	
2 教職員自らが資質向上に励み、不断の授業改善により生徒の学習意欲を高め自ら進んで学ぶ態度を育成する。	① 学習時間の調査を通して、自ら見通しを持って家庭学習に取り組む態度を育て、学習習慣の確立を図る。	1日平均2時間以上家庭学習している生徒の割合が A：60%以上 B：50%以上 C：40%以上 D：40%未満	達成度 B 1学期 2学期 3学期 中間 期末 中間 期末 学年末 1年 49 66 45 48 45 2年 61 67 66 67 73 3年 50 63 48 52 - 全体 53 65 53 56 59%	1学期終了時には、定期考査1週間前において学校全体で65%の生徒が2時間以上の家庭学習を行っていたが、夏季休業を挟んだ2学期中間で53%、2学期期末で56%となり、学年末では59%となり達成度はB評価となった。 特に1年生において、夏季休業後の学習時間の確保に課題を残した。原因としては、入学直後の緊張感が緩んだこと、夏季休業中の生活指導が行き届かなかったこと、9月から学校生活への切り替えが十分できない生徒が多かったこと、などが考えられる。3学期後半から春休みにかけて、次の学年に向けての意欲と自覚を喚起することで、学習時間の確保を図り、次年度へ繋げていきたい。	C、Dの場合、学習指導のあり方を再検討する。	教務課 各学年 各教科
		② 不断の授業改善の実現に向けて、教科の枠を超えたOJT研修を実施することで、生徒の学習意欲向上を図る。	(生徒) 本校の教員は、生徒が主体的に学習できる授業を行っている と回答する生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 (教員) アクティブ・ラーニング等の手法を授業に取り入れた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	(生徒) 達成度 B 76% (教員) 達成度 C 67%	生徒の評価では、授業において生徒同士で話し合ったり、発表したりするなど、積極的に活動できる授業が行われている、と回答する生徒が微増した。また、教員の評価においても、アクティブラーニングの手法を授業に取り入れている教員が全体の3分の2を超えた。今年一年、授業改善を目指して、異年齢、異教科による「グループ研修」に取り組んだ成果の一つと考えられる。 次年度も生徒の学習意欲の向上につながるよう、教師の授業改善の取り組みを継続していくことで、達成度評価がA評価になるよう、授業改善に係る情報発信や、教員への働きかけを行っていきたい。	C、Dの場合、授業改善の状況、指導法を再検討する。
3 あらゆる教育活動を通して、規律ある学校生活を送り、誠実で品位ある心豊かな生徒を育成する。	① 時間を守る等、基本的な生活習慣の確立を図り、遅刻常習者への面談を強化するなど、各学年ごとに遅刻を減少させる取組を実施する。	一日平均の遅刻者数が A 3人未満 B 4人未満 C 5人未満 D 5人以上	達成度 D 6,84人	1学期終了時には、昨年度と比較し遅刻者数の減少がみられたが、2学期以降急激に遅刻者数が増加した。その傾向を見逃さず、1学期とは違う対策を取る必要があった。また1月以降は大雪の影響もあり、遅刻者数が急増した。ここ数年遅刻者数が他校と比較しても非常に多い。現在の本校生徒に対する遅刻指導の在り方が効果的なものではないと考えられる。よって、平成30年度の遅刻指導は、生徒指導課ばかりではなく、全職員で本校の現状を把握し、生徒・保護者の意識改革を早急に行う必要がある。	C、Dの場合、特に常習者の遅刻原因を究明し、生徒・保護者とともに対応策を検討する。	生徒指導課 各学年
		② 自発的な挨拶、正しい言葉遣いなどを身につけ品位のある人間性を養う。	自ら進んで挨拶できる生徒の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	達成度 B 83%	アンケート結果では達成度Bであった。しかし、実際生徒と接していると、これほどの割合で自発的な挨拶が学校で行われているとは思われない。生徒の感覚と教師の感覚とに少し開きがあるものと思われる。挨拶を返せる生徒は増加傾向にあるので、それらの生徒が自発的な挨拶をできるよう段階的に指導をしていきたい。 具体的には、生徒会と協力して、生徒による挨拶運動、ロングホームでの挨拶に関するディスカッション、挨拶の俳句作りなど、様々な角度から挨拶の重要性を訴えていく必要がある。また、大人である教師や保護者が学校、自宅、職場で挨拶を励行していかなければならない。	C、Dの場合、改善策を検討する。
	③ 学校生活の中で、環境保全に対する生徒の意識を高める。	ゴミの分別、教室やトイレの消灯等、校内の環境保全活動に積極的に取り組んでいる生徒の割合が A：85%以上 B：80%以上 C：75%以上 D：75%未満	達成度 A 89%	前・後期ともに、環境意識に対する肯定的評価をした生徒は非常に多かった。これは日ごとの清掃での声かけや「省エネアクションプラン」の提出、また「クリーンアップ運動」を通して、生徒が環境保全の意識を高め具体的な取り組み方法を学んだことが奏功したと考えられる。しかし、実態は、教室やトイレの消灯、ごみの分別やごみ出しマナーの徹底など十分であるとは言い難い。今後は、環境保全について学んだ正しい知識が行動に結びつくように、保健相談課が主導して更なる意識啓発を進めていく必要がある。	C、Dの場合、改善策を検討する。	保健相談課 各学年
		④ 部加入率を高め、部活動を活性化させる。	部活動に登録した生徒の延べ人数が全生徒数の A：90%以上 B：85%以上 C：80%以上 D：80%未満	達成度 B 前期 82% 後期 87%	1年生の加入率は93.9%、2年生の加入率は79.4%と前期の82%から後期は87%と上昇傾向にある。生徒への学校評価アンケートにおいて「部活動が学校生活を活力あるものになっている」と回答する生徒が前期の78%から後期83%と上昇している。この結果から、部活動に単に所属しているだけでなく部活動を通して学校生活の充実を図っている生徒が増えていることが読み取れる。2学年とも女子の加入率が男子に比べ低く、今後女子生徒の加入率を上げる手立てを考える必要がある。	C、Dの場合、各部活動の活動内容・記録等を周知するとともに、高校生活を通して部活動を続ける意義を実感させる取り組みを再検討する。

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）	当初示した判定基準	主担当
4 学校の魅力を積極的に発信し、保護者や地域から信頼される学校づくりを目指す。	① ボランティア活動後の振り返りを充実させ、自己の成長を実感させることで、ボランティア活動に積極的に参加する意識を一層高める。	ボランティア活動に参加した生徒の実人数が全生徒数の A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	達成度 D 44%	生徒会執行部やJRC部、各運動部を中心に様々なボランティア活動を行った。今年度は1月から2月にかけての大雪の影響で除雪ボランティアに参加した生徒が多かった。通学路の除雪だけでなく、地域の除雪活動を通して地域の方々と交流を行い、親交を深めることができた。ボランティア活動に参加した実人数は全体の44%と振るわなかったが、今年度の延べ人数は822人と昨年度の718人を上回ることができた。実人数増加のためには、ボランティア活動未経験者に活動を促す手立てをもっと増やす必要があると考える。なお、個人でボランティア活動を行っている生徒については、集計に加えていない。	C、Dの場合、活動計画の周知を徹底するとともに、活動の意義を実感させる取組を再検討する。	特活指導課 各学年 各部活動
	② 学校ホームページを活用し、保護者や地域等への情報提供を一層充実させる。	学校ホームページによって、本校の教育活動についてよく理解できると回答した保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	達成度 C 72%	本校のホームページは先生方の協力により学校行事やクラス活動、部活動などについて幅広く、また適時に更新されており、閲覧すると本校の教育内容がよくわかるようになっている。しかも、本校のホームページのアクセス数は大変高い。そのことから、この達成度72%を考えると、意外と保護者の本校ホームページのアクセス数は少ないのではないだろうか。今後、内容の充実はもちろんであるが、生徒・保護者にホームページを閲覧してもらえよう機会あるごとに働きかけ、ホームページを閲覧すると学校の教育内容がよりわかりやすく把握できるよう、より一層のレイアウトやコンテンツの工夫を図る必要がある。	C、Dの場合、提供する情報の内容等について再検討する。	副校長 総務課
学校関係者評価委員会の評価	<p>重点目標1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの将来を見据えた、より高い進路目標をもたせるため、生徒にどのような働き掛けをしているのか。 ・志望校を決定する時期が遅く、結果的に受験対策が後手に回り、第一志望に合格できない生徒が多いのではないかと。2年次の早い時期に志望校を決定出来るよう指導を強化すべきである。 <p>重点目標2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学んでいると回答している生徒が75%以上というのは非常に高い。アクティブラーニングを推進させるためには、どんな授業を目指したいのか学校としての具体像を示す必要がある。 ・生徒がいきいきしている学校であるために、教員がワークライフバランスの改善にこれまで以上に留意し、生徒と向き合う時間を確保する必要がある。 <p>重点目標3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻を防止することに学校だけで取り組むのではなく、保護者に理解と協力を得るよう強くはたらきかける必要がある。 ・社会人として必要なスキルは何と考えているか。目上の人に対する態度、挨拶の徹底について指導を徹底すべきである。 ・交通安全の指導、特に米泉8丁目交差点での横断について注意を促してもらいたい。 <p>重点目標4について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部の未加入生徒がボランティアに積極的に参加できるようにしてはどうか。 ・ホームページでの学校からの情報提供をより充実してもらいたい。 ・伏見川周辺など町内の清掃や今冬の大雪に伴う除雪など、多くの生徒が年間を通してボランティア作業をしており、地域住民は大変感謝している。町会の役員会においてもよく話題になっている。地域の方と協力し、地域のためになる学校となってもらいたい。 					
上記評価に対する今後の取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上級学校に進学することだけでなく10年・20年後といった少し遠い将来の自らの職業や社会貢献の姿をイメージさせ、それを実現するためにはどの学校に進学すべきか、今は何に取り組むべきかを個人面談や進路講話等を通して生徒・保護者とともに考えていくことを今後も重視する。また、入学後の初期指導を重視し、特進クラスの生徒を中心に、国公立大学に合格するための学力強化を図る。2年次の冬までに第一志望校を決定し、早期に受験対策を開始できるよう指導する。 2. 今年度実施した教職員のOJTにより、不断の授業改善への意識が強化された。来年度は「主体的・対話的で深い学び」について、本校としての具体像を検討する。また、教職員が授業内容を充実させるための教材研究、生徒との面談などにより多くの時間を充てることのできるよう、一層の業務改善に取り組む。 3. これまでの遅刻指導について全面的に見直す。保護者の理解と協力を得ながら、絶対に遅刻をしない・させないよう学校を挙げて取り組む。また、挨拶・礼儀・交通安全の徹底について指導を強化する。 4. 学校周辺における本校生徒のボランティア活動は、地域住民にも認知され感謝されている。今後は、部活動に未加入の生徒へのボランティア情報の提供や参加を促す方策を検討する。また、今年度、学校ホームページの内容充実を重点的に行った結果、アクセス数が急増した。今後は、本校の教育活動がよりわかりやすく伝わるよう学校ホームページの改善を継続する。 					